

科目名	経済成長論	科目分類	■専門科目群（第1グループ） □総合科目群（第2グループ）
			経済学科 □必修 ■選択
			学科 □必修 □選択
英文表記	Economic Growth Theory	開講年次	□1年 □2年 ■3年 □4年
ふりがな	はたけやま あきのぶ	開講期間	□前期 ■後期 □通年 □集中
担当者名	畠山 光史	修得単位	2単位
授業のテーマ	経済成長理論への入門授業です。		
到達目標	学生は、経済成長理論の基礎概念および基本的な分析手法を習得できる。		
授業概要	本授業では、最初に短期的な経済変動である景気循環に関する基礎概念について学習します。次いで、3つの経済成長理論（ケインズ派モデル、新古典派モデル、内生的成長モデル）について理論モデルを学習します。		
授業計画			
第1回	イントロダクション		
第2回	景気循環論1（景気循環の定義と景気動向指数）		
第3回	景気循環論2（4つの景気循環）		
第4回	景気循環論3（景気循環の要因—貨幣的か実物的か）		
第5回	景気循環論4（投資の重要性—加速度原理）		
第6回	ケインズ派の経済成長論1（ハロッド=ドーマー・モデル—入門）		
第7回	ケインズ派の経済成長論2（ハロッド=ドーマー・モデル—応用）		
第8回	ケインズ派の経済成長論3（ハロッド=ドーマー・モデル—演習）		
第9回	新古典派の経済成長論1（ソロー・モデル—入門）		
第10回	新古典派の経済成長論2（ソロー・モデル—応用）		
第11回	新古典派の経済成長論3（ソロー・モデル—演習）		
第12回	「新しい」古典派の経済成長論1（内生的成長モデル—入門）		
第13回	「新しい」古典派の経済成長論2（内生的成長モデル—応用）		
第14回	「新しい」古典派の経済成長論3（内生的成長モデル—演習）		
第15回	総まとめ		
第16回	定期試験		
授業時間外の学習	授業後には、授業内容を復習し、重要概念および分析手法を再確認してください（1.5時間程度）。		
履修条件 受講のルール	ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、基礎数学Ⅰ・Ⅱの単位修得を前提とします。		
テキスト	指定しません。		
参考文献・資料	ブランシャール 「マクロ経済学（下）」 東洋経済新報社（2000） フォーリー、マイクル 「成長と分配」 日本経済評論社（2002）など		
成績評価の方法	複数回の課題(20%)、定期試験(80%) ・出席回数の規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。 ・遅刻は欠席と同等に扱います。 ・出席確認時に不在だった場合は原則としてその回は欠席とします。 ・授業中に無許可で退出した場合は欠席とします。		
オフィスアワー	月曜日4限、水曜日4限とします。		

成績評価基準	2016年以降に入学した学生：秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下) 2015年以前に入学した学生：優(100～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	経済理論系の科目は、授業後の復習を行うとともにインターネット、テレビ、新聞、雑誌等で日本経済および世界経済のマクロ経済動向を積極的に把握するように努めることが重要です。